中病棟 5 階

(心臓血管外科、腎臓内科、小児科)

1. 看護単位の概要

病床数 30床

心臓血管外科 11床 腎臓内科 18床 小児科 1床 共通病床 6床

2. 病棟の特徴

1) 心臓血管外科

大動脈疾患、虚血性心疾患、弁膜疾患、心筋症、末梢血管疾患など多岐にわたる疾患の手術を行っている。近年、低侵襲で行うことができる経皮的動脈弁置換術(TAVI)や経皮血管内ステントグラフト内挿術 (TEVAR・EVAR) が行われるようになり、手術適応が拡大している。術直後はICUで全身管理を行い、病棟帰室後は循環動態に注意しながらモニターで管理し、心臓リハビリを実施している。

内服管理、禁煙、食事コントロール(塩分制限・水分制限)など自己管理ができず、入退院を繰り返す患者も多い。高齢・独居・老々介護のなどさまざまな社会背景をもつ患者も多くなっており、看護師の役割として入院時から退院後の生活を見据えたアセスメント能力や患者・キーパーソンへの関わりが重要となっている。このため、外来や患者サポートセンターと連携し、禁煙指導や入院前アセスメントを行い、入院時より患者の問題点を把握し、介入出来るように努めている。

退院後も自己管理能力を高めることができるように、生活調整を支援し、早期から個別の患者教育と在宅支援が必要となる。患者さんのQOLを維持・向上のため医師、薬剤師、栄養士、リハビリ、MSWなどと常に連携を取りながら、チーム医療を実践している。

2) 腎臓内科

腎炎、ネフローゼ、腎不全患者の診断・治療を対象としており、腎生検、シャント増設術、血液透析・腹膜透析を行う患者に対し、術前・術後の指導を含め生活環境を考慮した指導を実施している。また、他職種と連携し慢性腎臓病の教育入院にも取り組んでいる。最近では、高齢者の透析導入も増加しており、生活パターンの変化を見据えた退院支援も重要となっている。

3) 小児科

主に15歳以上の先天性心疾患の、カテーテル検査や治療目的の患者を受け入れている。